

# いま、改めて人から人へ、「伝えることの意味」～研修会報告

【日 時】 2013年2月1日（金） 15:00～16:20

【場 所】 埼玉県生活協同組合連合会 会議室にて

【参加者】 14人

【開催趣旨】 協同組合の活動や、人々の協同の輪をよりいっそう広げていく上で、活動の道筋、思いや願いを伝えていくことは基本のひとつであり、協同組合原則の第5原則（教育、訓練及び広報）でも協同組合を知らせることが定義されています。いま、改めて人から人に伝えること、伝えることの意味を考えるものとして実施しました。

【テーマ】 「伝えることの意味」

【講 師】 岩垂 弘 氏（元朝日新聞社編集委員、平和・協同ジャーナリスト基金代表運営委員）



講義中の岩垂 弘氏（2月1日埼玉県生協連にて）

## ■講演要旨

### 「人間が生きていく上で必要不可欠なもの」としての情報

新聞記者としての終わりの時期、編集委員の時期ですが、同僚で隣の席の経済部出身者から、人間が生きていく上で大切なものはと問われました。人間にとって必要不可欠なものはたくさんありますが、三つ挙げるとしたら、「食料」「エネルギー」と並んで大切なもの、その一つが「情報」です。

### 情報とは何か

情報とは何か、辞書「広辞苑」には「あることがらについてのしらせ」、「大辞林」では、「事物・出来事などの内容・様子。また、その知らせ」、「ある特定の目的について適切な判断を下したり、行動の意思決定をするために役立つ資料や知識」とあります。今日はもう一つ別な視点、グローバルな視点で考えたいと思います。

## 国の運命を左右する情報

情報は、国の運命、世界の運命と結びついた大切なものです。国家、組織にとっても大切なことだと申し上げたい。

## 日本人は情報発信が苦手

日本では、喋る人間、情報を出す人間は余り信頼されません。「目は口程にモノを言う」と言われます。目は口程、モノを言うのでしょうか。

日本文化は、ファジー、曖昧です。谷崎潤一郎に「陰翳礼賛」という言葉があります。一方で日本、日本人の特徴は集団主義です。日本社会、企業にも組織に現在もあるのではないのでしょうか。

## 主体性の確立と対象の把握を

一人ひとりが正しく人に伝えていく、そういった主体性が大切ですが未だまだです。一人ひとりが自立し、自分の努力で他者に伝えるべきです。情報は、出す人、受ける人の相互主義で、両方で成り立ちます。他者が居て成り立つのですから、自分の主体性の確立と、あわせて他者を理解することです。何を誰に伝えるのかということです。

## (日本語の特徴)

日本語は、主語→目的語があって動詞。英語や中国語では、主語→動詞が先ずあります。構成が全く違います。日本人の個性がない、口下手と結びついた情報発信ですから、最後に動詞が出て来ます。最後まで聞かないと何を言っているか分からない。(日本文学で)世界の名作と言われている源氏物語は主語(主体性)がない、日本文化の特徴が集約されていると考えます。

## 企業は情報収集と発信に躍起、協同組合は？

企業は、企業活動のグローバル化のなかで情報収集しないと企業が立ちいかなくなり躍起です。それに比べ協同組合は情報(収集)を余り重視していないのではないのでしょうか。行政や企業は、社員の一番優れた人を広報に置きます。優秀な人を配置しています。協同組合は果たしてどうでしょうか。内向きと言わざるを得ません。生協は、自分たちの情報収集と発信を大切にすべきです。

## 協同組合原則の再認識を

1995年のICAマンチェスター総会で確認された、協同組合原則の第5原則で広報を謳っており、もっと外に向かっていいのではないのでしょうか。さらに第7の原則では、共助だけでなく、地域の人たちに向けて新たな原則が付け加えられたのですから。

## 協同組合はもっと情報発信を

内向きが強いのは、マスメディアの世界、実体を余り知らないからでは。対象を決めたら、相手の整理と、そこに対し効果的な情報発信を考えるべきです。